

令和2年第1回沖縄県教育委員会会議（定例会）議事録

1 開会及び閉会に関する事項

令和2年1月16日 午後3時開会
午後3時46分閉会

2 出席者及び欠席委員の氏名

(1) 出席者

教育長 平敷 昭人	委員 松本 廣嗣	委員 照屋 尚子
委員 上原 勝晴	委員 山里 清	委員 藏根 美智子

(2) 欠席委員

なし

3 説明のため会議に出席した職員の職氏名

教育管理統括監	儀間 秀樹	教育指導統括監	半嶺 満
参事	識名 敦	参事	當間 正和
総務課長	佐次田 薫	教育支援課長	横田 昭彦
施設課長	賀数 朝正	学校人事課長	屋亘 宣秀
県立学校教育課長	玉城 学	義務教育課長	宇江城 詮
保健体育課長	太田 守克	生涯学習振興課副参事	伊集 涼子
文化財課長	濱口 寿夫		

4 議事関係

(1) 開会

平敷教育長が開会を宣告した。

開会后、令和2年1月1日付けで委員に就任した藏根美智子委員が就任挨拶を行った。

【藏根委員就任挨拶】

皆さんこんにちは。去る1月6日、玉城知事より辞令をいただきまして、1月1日付けで県教育委員を拝命いたしました藏根美智子と申します。よろしくお願いたします。37年間にわたって小学校教員として務めて参りましたが、3年前に室川小学校を最後に定年退職いたしました。そのあとすぐに放送大学沖縄学習センターの准教授の職を拝命いたし、今日に至っております。放送大学では、国語教育、図書館教育、教育行政を専門といたしております。放送大学は15歳から85歳の幅広い学生を対象とされているのですが、教育相談、全国初のNIEによる面接事業、ゼミ、卒論指導などを担当しております。また、子供の貧困問題を始めとして、男女共同参画社会、SDGs啓発のシンポジウムなどを企画、開催して参りました。沖縄県における仕事といたしましては、教育庁生涯学習振興課長として、家庭教育の充実、家～なれ～運動の予算獲得、県立図書館の泉崎移転に関わったという経緯もございます。そのような経験を生かし、昨年度、沖縄県立図書館に放送大学コーナーを開設し、

400冊あまりの放送大学の教科書を配架するという、全国初の取り組みも実施することができました。この度は県教育委員という大役を拝命いたし、大変恐縮するとともに、皆様と一緒に仕事ができますことを大変楽しみにいたしております。まだまだ未熟なものですが、これまでの経験を少しでも生かし、沖縄の教育行政や教育環境について貢献できるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 議事日程の決定

議事日程は会議資料記載の日程案のとすることが決定された。

(3) 議事録署名人の指名

平敷教育長が、山里委員を議事録署名人に指名した。

(4) 報告事項

報告事項1 令和元年第6回沖縄県議会（11月定例会）における質問・答弁等概要報告

【説明（総務課長）】

資料に基づき、令和元年第6回沖縄県議会（11月定例会）における質問・答弁等概要報告について報告を行った。

【質疑等】

- 藏根委員 大変嬉しい報告です。平成30年陳情第104号『30人以下学級の全学年実施に関する陳情』が採択ということで、これは具体的に来年からということですか。
- 学校人事課長 陳情の主たる要旨としまして、沖縄県独自の政策として小中学校の全学年において30人以下学級を実施すること。それから、県独自予算において教職員の定数増を図ることということになります。それに対する県の処理方針として答弁させていただいているのは、現在行っている小学1・2年生までは30人学級、中学1年生までは35人学級という現状を述べたうえで、それ以上の拡大につきましては市町村教育委員会の意向等を踏まえて検討して参りますと回答しています。それから、実施について県の予算等につきましては、国の加配定数等を活用して進めていきたいということで、全国都道府県教育長協議会を通じて国に対して要望していきたいと回答したところであります。
- 藏根委員 まだ30人学級ではなく、その努力をしているのですね。
- 学校人事課長 今現在はさらなる拡大に向けて努力していきます。
- 藏根委員 わかりました。ぜひよろしくお願いいたします。
- 照屋委員 質問ではなくて要望なのですが、(37)『これまでの不登校改善策に効果が見られない理由について』というところです。学校のあり方自体が沖縄県だけではなく全国的に崩壊しています。子供たちからのSOSの発信だと思っています。

教員も多忙化していろんなことを抱えてしまい、学校だけでは対応できなくなっているのではないかと思います。こういった不登校に関して、本人だけではなく家族支援をするなど伴走型の支援をしている県外の民間団体があります。民間の力を活用するという方法もあるのかなと思います。学校だけで対応するというのは限界ではないかと思います。もちろん学校では、チーム学校としてソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等チームで対応するのはもちろんですが、民間団体や専門性を持っているところ、地域の皆さんの協力も必要だと思います。答弁では「児童生徒一人ひとりの要因を的確に把握して、個に応じた対応をより一層充実させていく必要がある」とあります。この「要因を的確に把握する」ということに関しては、各学校のクラスでアセスメントをする必要があると思います。そのアセスメントは学校によってやっている、やっていないがバラバラだと思いますが、これを統一してアセスメントを取って、その結果をしっかりと用いていくというふうに持っていけないと、後手後手になってしまうと考えています。あとは未然防止に関して、自己理解・他者理解、伝える力、自分を理解し相手のことも理解する、そして思いやりを持って相手を尊重するといったことを、幼少期から幼稚園、学校の中で力を入れて取り組んでいくと、クラスの雰囲気も良くなると考えております。その辺も併せて取り組んでいただき、また、良い結果を出している学校もたくさんあると思いますので、その辺の情報を皆さんで共有できたらいいと思っていますので、よろしくお願いします。

- 義務教育課長 ありがとうございます。来年は学校支援訪問で生徒指導を多く取り入れて、そこで情報収集して、良い成果を出している学校の情報を各学校で共有しようと次年度の計画を立てております。アセスメントの件ですが、スクールカウンセラーと組んで研修会などを開いて、どのようにアセスメントを作っていけばいいのか、民間の力を借りるのかということも含めて検討しています。
- 教育長 民間の力とは具体的に言うと。
- 照屋委員 NPOなどで不登校支援をしている団体があります。不登校の本人だけを支援するのではなく家族ぐるみで支援したり、ただカウンセリングするだけではなくて伴走型というか寄り添う支援をしたり、話を聞くだけではなくて一緒に何か活動したり、県外ではそのような支援をしている団体があります。
- 教育長 確かに不登校についてはいろんな要因があると言われていきますので、何が原因かわかると一番良いのですが。支援員やカウンセラー、担任などいろいろ関わっていく中で、保護者の経済状況だったり、病気があって病院に繋いだら登校するようになったりなどいろいろな事例があります。民間との連携の仕方をどういうふうにするのかというのは、不登校の要因によって違うと思います。
- 義務教育課長 どこに繋いだら一番良い成果が得られるかを、アセスメントをとってしっかり対応したい。様々な要因があり、登校させること自体が目的でないこと

もありますので、それを踏まえてしっかり対応できたら良いと思います。

- 教育長 幼少期からの自己理解・他者理解についての話がありましたが、幼児教育の話になりますよね。非認知能力の世界の話になると思います。
- 照屋委員 非認知能力を高めると言うことは幼少期から必要だと思うのです。
- 教育長 これは不登校の話だけではなく、いじめの話にもなりますね。
- 照屋委員 そうです。不登校の要因になっている可能性もあるので、未然防止のためにも必要かと思います。
- 教育長 幼児教育については、幼児教育センターの取り組みの中でも、質の向上を図るために、その点どういう事ができるか話し合いたいと思います。

報告事項2 令和元年度実施沖縄県立学校実習助手及び寄宿舎指導員選考試験最終合格者の報告

【説明（学校人事課長）】

資料に基づき、令和元年度実施沖縄県立学校実習助手及び寄宿舎指導員選考試験最終合格者の報告について報告を行った。

【質疑等】

- 藏根委員 今、男女共同参画といわれる中、最終合格者数13人中女性が6名入っており、非常に嬉しいです。これはもちろん特に意図したものではないですよね。
- 学校人事課長 はい、実力でございます。
- 藏根委員 それについていろいろな工夫を考えていかないといけないなと思います。ありがとうございます。
- 照屋委員 教員は本務化を目指していますが、実習助手と寄宿舎指導員も本務化を進めているのでしょうか。また、臨任と本務の割合を教えてください。
- 学校人事課長 現在、実習助手は本務が251名、寄宿舎指導員は本務が114名です。実習助手の臨任は正確な数字でございませぬが、50人ぐらいです。それぞれについては、計画を持って、退職者数などはしっかり補充していく方向でやっております。
- 教育長 本務化の計画みたいなものはないですよね。基本的には本務で採用しているのですよね。
- 学校人事課長 計画は特にないということでございます。
- 松本委員 本務251人、臨任50人ということですか。

- 学校人事課長 はい。
- 教育長 300人くらいですね。
- 照屋委員 志願者は臨任から志願したという方もいらっしゃるのですか。
- 学校人事課長 はい、いらっしゃいます。

報告事項3 「白保竿根田原洞穴遺跡」の国史跡指定についての報告

【説明（文化財課長）】

資料に基づき、「白保竿根田原洞穴遺跡」の国史跡指定についての報告について報告を行った。

【質疑等】

- 山里委員 洞穴というのは、沖縄のあらゆるところに分布していると思うのですが、今回この場所につきましては、新空港ができるということがきっかけで見つかったのはラッキーだったと思います。洞穴があるというだけでは、特に調査が入るというわけではないですか。
- 文化財課長 そうですね。我々教育委員会は、開発に伴う発掘調査を行いますので、開発計画があつてこの遺跡が壊れてしまう前に記録・保存をするための調査をするという役割です。そのため、我々としては洞穴があるというだけでは調査はしません。ただ、博物館や大学はそういう学術的観点からやりますし、現に県立博物館は、港川人が出たサキタリ洞と同じ系列の同じような構造のところを狙って掘っていて、いろんな成果を上げているという状況です。
- 山里委員 ある程度可能性がありそうなところというのはより重点的に、主体的に調べることもあり得るのですか。こういう感じで、公共事業あるいは大規模開発などを民間が行うときに、遺跡が出てきた時は調査するかと思うのですが、それ以外でも、そこに昔人住んでいたのではないかなどの可能性があるようなところも計画的に何か調べるといふことはあるのですか。
- 文化財課長 今のところそういう予定はないです。ただ、この件に関しても、近くの洞穴はこれだけではないわけです。やはり似たような環境の鍾乳洞はいくつかありますので、そういうところを調べたら面白いとは思いますが。
- 山里委員 実は、新石垣空港の時、私は県にいて、白保についても陸上案、海上案といろいろあり、ここの洞穴も最初は潰そうという話があつたり、それから中には貴重な生物がいるということがあつたり、いろいろそういうやりとりがあつたような記憶があります。そういう意味では、こういう形で残せて、そこにしっかり良いものが出てきたというのはとてもラッキーですね。

- 文化財課長 ものすごく運が良かったと思います。
- 上原委員 新たに白保の遺跡が国指定になったことは、大変喜ばしいことではないかと思います。県民の誇りがまた一つ増えたと思っております。そこで、正式な指定はこれからだということですが、いづろそれが指定されるのか。それから、最後の方で文化財課長から『今後の計画』ということでありましたが、3年計画でいろいろ話し合いをしてやっていくということですが、保存や活用、特に活用の場合、学校、社会教育施設等考えられますので、その辺の計画を現時点でわかる範囲でよろしいのでお話しただけるとありがたいと思います。
- 文化財課長 はい。最初の官報告示の件ですけども、これは国の事務の関係上いつかはわからないですが、今までの経験上、この審議会が6月と11月で毎年決まっております、11月に答申が出たものは概ね2月とか3月が多いかなと思いますので、そろそろではないかと思います。それから今後の計画ですけども、やはり史跡というのは指定して保存するだけではなく、それを活用することです。特に子供たちに、実物を見て勉強してもらおうというのは非常に大事だと思います。ただ、ここが空港の敷地内ですから、現状ではフェンスがあって鍵がかかっている、我々も調査する時にはその空港管理者の許可を得て鍵を借りて中に入るという状態です。なので、この状況をどのようにしたら見やすくなるかというのは、これから大きな課題になるかなということ。まだ具体的にはどうしようというのはありません。
- 上原委員 課長からありましたように、場所が場所だけに、気軽に行けるとか学校で児童生徒がここで学習しましょうということは厳しい状況です。この辺の子供たちや社会は頻繁に行けないという状況ですので、それも踏まえて、そういった面も考慮されていくと思いますけど、多くの県民や児童生徒が関わって活用できるよう、ぜひお願いします。
- 文化財課長 そうですね。一昨年、埋蔵文化財センターで2週間ほど実物を1号から4号まで展示したことがありまして、その時は2週間ですが名前を書いた人だけで3千何百人、実際は5千人ぐらい来たと思います。駐車する場所がなくなるぐらい沢山見に来られていました。ですので、資料としては県の埋蔵文化財センターが保管していますので、そういう展示会等で学習に寄与するというようなことは十分考えられます。あとは、現地について開けっ放しはできませんので、何らか事前予約制といったかたちで解説者が鍵をかけて案内するみたいな感じになるのかなと思っておりますが、まだその辺は今後検討ということ。です。
- 山里委員 この人骨、特に顔の部分がわりとしっかり残っているということなので、最近のいろんな技術やコンピューター、IT、バーチャルなど復元や再現に使ったら良いかと思えます。
- 文化財課長 実は、もうやっております。今、埋蔵文化財センターに行きますと、複眼とありますが、この4号の顔の筋肉と皮膚と、毛は想像になってしまうのです

が、それらを復元したものが展示されておりますので、ぜひご覧下さい。

- 山里委員 わかりました。
- 松本委員 非常に県民にとっては誇らしい発見ですけども、10 ページにある写真から見ますと、これは表面を削って行って初めてこの洞穴が見つかったのでしょうか。もともと、表にそういう洞穴があるということがわかっていた場所なのですか。
- 文化財課長 はい。洞穴があったことはもともとわかっていたと思います。陥没したのはだいぶ前でして、この部分はいわゆる穴ぼこになっております。ここに洞穴があることはわかっていました。
- 松本委員 削ったから出てきたというわけではないのですね。
- 文化財課長 そうですね。
- 教育長 コウモリがいたというのもこちらでしたか。
- 文化財課長 コウモリもいたかと思います。
- 教育長 ここは残す話は最初からありましたよね。
- 文化財課長 ありました。コウモリの関係でそういった話があったと思うのですが。
- 山里委員 これは雑談ですけども、このコウモリを他の洞穴に移してここは潰そうという話とか、いろいろやりとりがあった記憶がありますが、無事こういったかたちで残って良かったと思います。
- 教育長 管理者は空港管理者ですよ。
- 文化財課長 はい。県の空港管理者になります。

(5) その他

特になし

(6) 閉会

平敷教育長が閉会を宣言した。